

# 2018 年度

## 卒業時の学修成果等アンケート実施報告

<結果の概要>

<所属ごとの回答者数・回答率>

<アンケート様式>

※ 経営学系、都市環境学部分子応用化学コース、健康福祉学部は、この他に独自の設問を設定している。

# 2018 年度 卒業時の学修成果等アンケート調査 結果の概要

## 《調査概要》

調査対象	2019 年 3 月学部卒業生
実施日	2019 年 3 月 22 日 (金)、25 日 (月)
実施方法	学部 (または系・学科・コース) ごとの学位記授与式でアンケート用紙を配布し、その場で記入して回収
回答率	75.3% (卒業者数 1,565 人、回答者数 1,178 人。昨年度の回答率は 65.5%)

## 《集計結果の抜粋》

### ■問 1 授業・教育に関する満足度のうち、「授業方法」に関する 3 つの設問

下図は、授業方法の満足度に関する 3 つの設問について、GPA\* (注) で 3 群に分けたときのそれぞれの回答分布について、2018 年度と 2017 年度の結果を並べて図示したものである。

注：評定 0 (欠席) を除き、評定 1～5 のみの成績データをもとに算出した修正版 GPA を「GPA\*」とする。

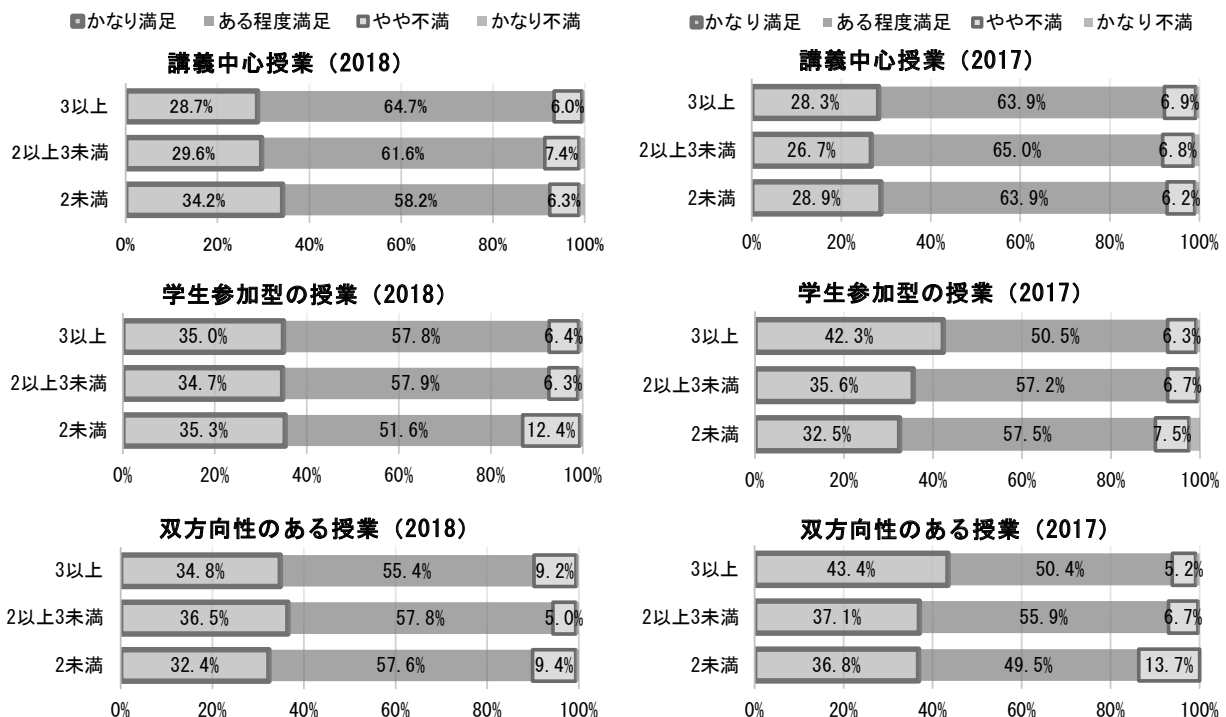
GPA\* の各群の構成比は以下の通りであり、2018 年度は低成績群の割合が高くなっていることに留意されたい。

2018 年度 3 以上：29.5%、2 以上 3 未満：56.5%、2 未満：14.1%

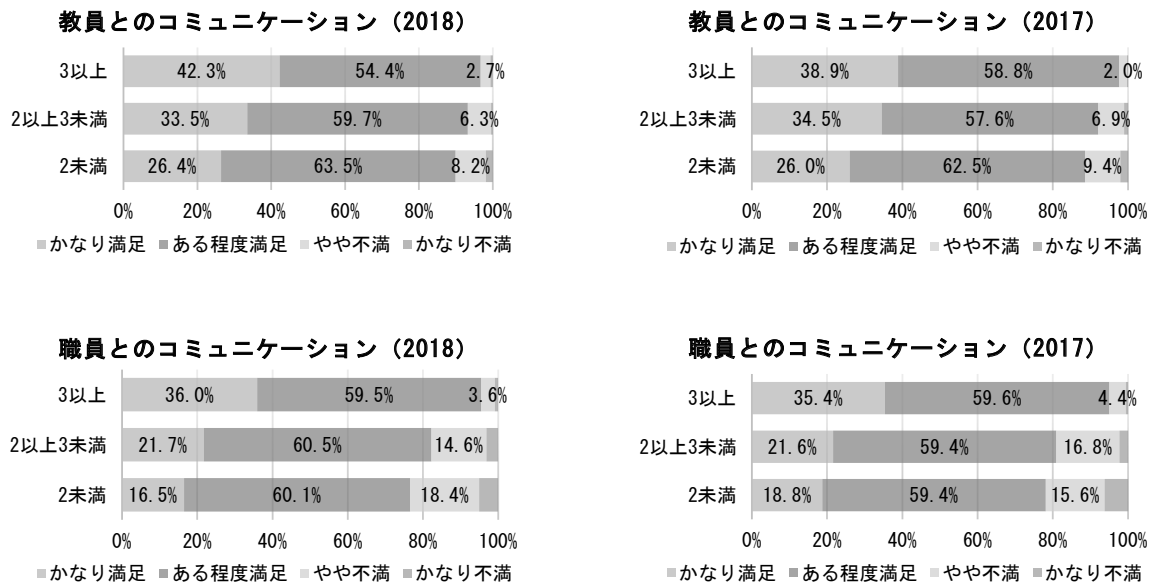
2017 年度 3 以上：34.0%、2 以上 3 未満：56.4%、2 未満：9.5%

(なお卒業者全体の GPA\* 分布は、3 以上が約 27%、2 以上 3 未満が約 57%、2 未満が約 16% で、いずれの年度もほぼ同様であった。)

昨年度 (2017 年度) は、双方向性のある授業あるいは学生参加型の授業では、高成績群ほど満足度がやや高いこと、講義中心授業よりも、アクティブラーニング型授業 (双方向性のある授業や学生参加型の授業) のほうが、満足度が比較的高いほうへ分布していることが特徴的であると報告したが、今年度 (2018 年度) は必ずしも同様の傾向はみられなかった。とくに、「高成績群のほうがアクティブラーニング型授業の満足度が高い」と積極的にいえるような差はみられない。ただし、その裏の「低成績群のほうがアクティブラーニング型授業への不満が大きい」については、とくに学生参加型授業についてはいえそうである (双方向性授業については、高成績群の不満もやや高い結果となっている)。また、今年度は「講義中心授業の満足度は、低成績群のほうが高い」という傾向もあった。



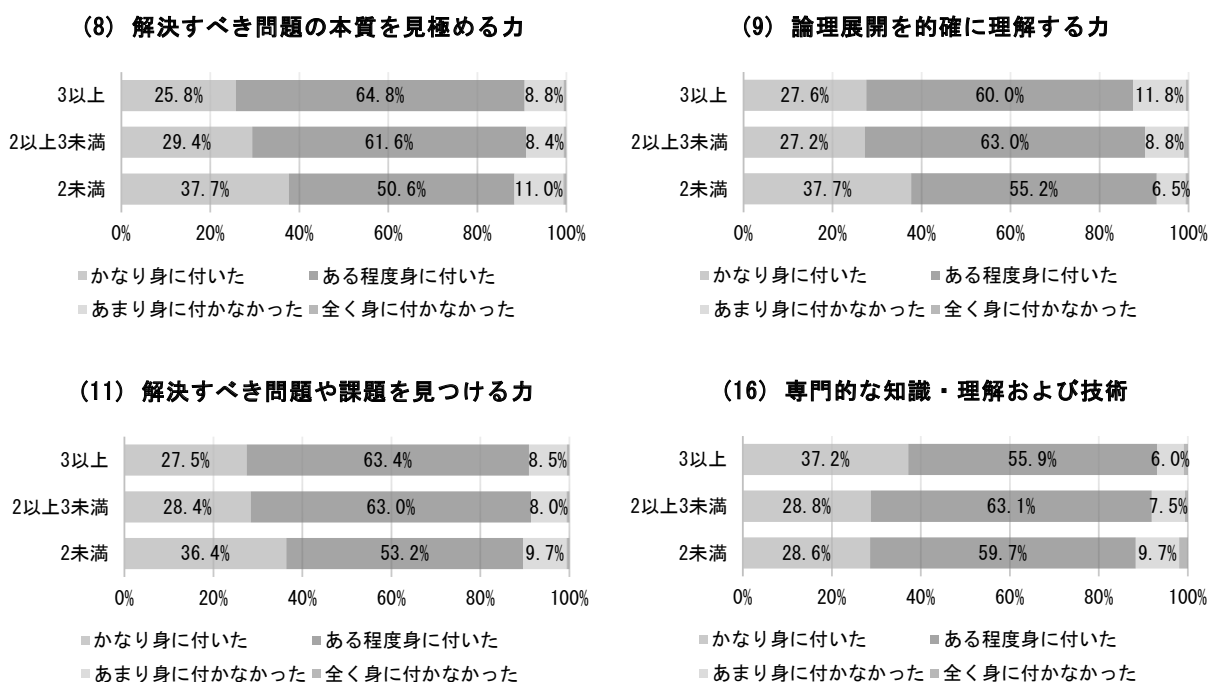
■問3 学習・生活支援に関する満足度のうち、「(1) 教員コミュニケーション」「(2) 職員とのコミュニケーション」  
 問1同様にGPA\*の3群で比較すると、低成績群の満足度が比較的低いことがわかる。これは2018年度、2017年度と一貫した傾向である。



■問4 正課を通して身に付いた力・態度・知識等 (ディプロマポリシーの間接評価)

ここでは、大学全体のディプロマポリシーに定められる能力のうち「普遍的に有用性を持つ能力」についての習得度自己評価 (4: かなり身に付いた～1: 全く身に付かなかった、の4段階) について集計している。

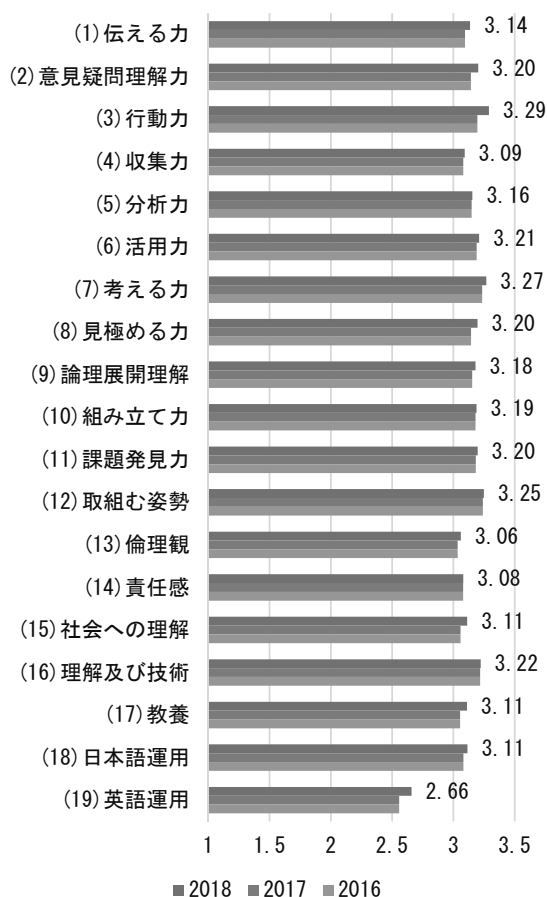
GPA\*の3群に分けて集計すると、下図のように、汎用的能力については低成績群ほど身に付いた度合いを高く自己評価する傾向があった。ただし、汎用的能力以外の「(16) 専門的な知識・理解および技術」については、高成績群のほうが自己評価は高い。「本学の授業の成績により評価される能力は何か」および「学生の自己評価そのものの能力がどのようであるか」の双方の観点から結果を検討する必要があるであろう。



右図は、大学全体のディプロマポリシーに定められる能力のうち「普遍的に有用性を持つ能力」についての習得度自己評価(4: かなり身に付いた～1: 全く身に付かなかった、の4段階)の全有効回答者についての平均値である。項目ごとにこの3年間の結果を並べ、2018年度のみ数値を表示させている。(注: 2016年度は一部の学部のみの実施であったためあくまで参考値である。)

「(3) 相手と協調して行動する力」、「(7) 多様な視点から物事を考える力」、「(12) 解決すべき問題に取り組む姿勢」、「(16) 専門的な知識・理解および技術」などが比較的やや高いこと、「(19) 英語の運用能力」が際立って低いことなど、全体的に3年間傾向は変わらない。ただし、2018年度はほとんどの項目で過去2年よりも若干高かった。前頁で述べたように、低成績群ほど自己評価が高い傾向があり、かつ低成績群の回答割合が昨年度までより高かったことから、このような傾向が生まれたものと考えられる。

本設問は、所属ごとの差が大きいうえに、項目ごとの高低は所属によって傾向が異なる。所属ごとにカリキュラムの性質や履修ルールをはじめ、学びに関する文脈が異なるほか、学生の気質も異なると考えられることから、そのような各所属の文脈に応じた分析が必要である。(ただし、後述の通り、所属ごとに回答率が大きく異なることに留意されたい。)



図：普遍的に有用性を持つ能力の習得度自己評価

表：普遍的に有用性を持つ能力の習得度自己評価（所属ごとの平均値）

所属	(1)伝える力	(2)意見疑問理解力	(3)行動力	(4)収集力	(5)分析力	(6)活用力	(7)考える力	(8)見極める力	(9)論理展開理解	(10)組み立て力	(11)課題見つけ力	(12)取り組む姿勢	(13)倫理観	(14)責任感	(15)社会への理解	(16)理解及び技術	(17)教養	(18)日本語運用	(19)英語運用
社会学コース	3.09	3.19	3.21	3.02	3.10	3.26	3.40	3.33	3.17	3.17	3.19	3.25	3.15	3.02	3.27	3.33	3.13	3.10	2.65
心理学・教育学コース	2.98	3.11	3.27	2.91	2.95	3.11	3.20	3.05	2.98	3.09	3.14	3.16	3.16	3.05	3.14	3.14	3.00	3.02	2.35
国際文化コース	3.06	3.17	3.09	2.91	3.09	3.20	3.32	3.12	3.15	3.16	3.20	3.18	2.97	2.98	3.34	3.34	3.15	3.17	2.82
法学コース	3.27	3.30	3.35	3.11	3.27	3.29	3.37	3.32	3.36	3.33	3.29	3.33	3.19	3.33	3.22	3.27	3.24	3.28	2.69
政治学コース	3.19	3.19	3.12	2.92	3.08	3.27	3.23	3.12	3.15	3.23	3.24	3.15	3.08	2.96	3.31	3.12	3.12	3.23	2.73
経営学コース	3.13	3.22	3.37	2.99	3.17	3.20	3.27	3.20	3.22	3.22	3.24	3.26	3.07	3.07	3.02	3.08	3.09	3.12	2.62
経済学コース	3.21	3.21	3.13	3.20	3.40	3.35	3.35	3.30	3.23	3.20	3.08	3.28	2.80	2.75	3.15	3.15	3.05	3.20	2.70
数理学コース	3.53	3.40	3.27	3.47	3.33	3.20	3.13	3.40	3.47	3.40	3.13	3.27	3.00	3.13	3.07	3.53	3.20	3.20	2.93
物理学コース	3.00	3.09	3.00	3.00	3.09	2.82	2.90	3.09	3.05	3.18	3.05	3.09	2.91	2.77	2.71	3.19	2.82	2.91	2.45
化学コース	2.94	3.18	3.18	3.06	3.12	3.24	3.29	3.12	3.31	3.12	3.12	3.29	3.06	3.00	3.29	3.06	2.94	3.06	3.12
生命科学コース	3.25	3.22	3.19	3.13	3.09	3.23	3.25	3.16	3.13	3.23	3.25	3.28	3.13	3.19	3.06	3.28	3.25	3.19	2.88
電気電子工学コース	2.71	2.93	2.92	2.69	2.50	2.71	2.93	2.86	2.64	2.71	2.57	2.50	2.43	2.50	2.43	2.69	2.64	2.57	2.29
機械工学コース	3.20	3.13	3.13	3.07	2.80	2.87	3.13	3.07	2.93	2.93	2.93	3.07	2.67	2.93	3.07	3.20	2.93	2.80	2.73
都市政策コース	3.23	3.23	3.46	3.15	3.31	3.46	3.54	3.31	3.31	3.31	3.38	3.46	3.31	3.38	3.38	3.15	3.31	3.31	2.62
地理環境コース	3.18	3.18	3.52	3.23	3.14	3.19	3.36	3.27	3.09	3.27	3.27	3.18	3.00	3.09	3.14	3.32	3.23	2.95	2.77
都市基盤環境コース	3.08	3.08	3.33	3.13	3.25	3.26	3.35	3.20	3.23	3.33	3.15	3.38	3.00	3.08	3.18	3.20	3.18	3.05	2.58
建築都市コース	2.94	3.12	3.15	3.03	3.15	3.03	3.06	2.97	3.03	3.09	3.06	3.24	3.03	3.21	3.12	3.24	3.09	3.12	2.74
分子応用化学コース	3.05	3.07	3.09	3.07	3.18	3.11	3.11	3.07	3.00	3.11	3.14	3.14	3.00	3.09	3.16	3.16	2.98	3.05	2.93
自然・文化ツーリズムコース	3.21	3.16	3.37	3.11	3.16	3.11	3.37	2.95	3.21	2.95	3.05	3.21	2.61	2.74	3.26	3.00	2.89	2.68	2.53
知能機械システムコース	3.21	3.25	3.41	3.14	3.12	3.21	3.18	3.19	3.14	3.13	3.23	3.27	2.88	2.96	3.11	3.26	3.14	3.18	2.56
情報通信システムコース	2.97	3.15	3.09	3.15	3.03	3.24	3.15	3.18	3.18	3.21	3.18	3.18	2.94	2.73	2.70	3.18	3.00	2.97	2.67
航空宇宙システム工学コース	3.17	3.20	3.39	3.27	3.24	3.29	3.29	3.22	3.27	3.17	3.22	3.44	3.18	3.17	3.12	3.41	3.07	3.22	2.76
経営システムデザインコース	3.10	3.23	3.15	3.05	3.10	3.15	3.13	3.15	3.15	3.10	3.10	3.08	2.80	2.88	2.82	3.13	2.95	3.00	2.38
インダストリアルアートコース	3.12	3.25	3.35	3.16	3.10	3.33	3.29	3.27	3.22	3.14	3.20	3.22	2.98	3.06	3.00	3.20	3.12	3.00	2.59
看護学科	3.30	3.42	3.62	3.31	3.23	3.31	3.37	3.32	3.33	3.34	3.42	3.48	3.47	3.34	3.23	3.43	3.32	3.26	2.54
理学療法学科	2.89	2.92	3.36	3.17	3.06	3.08	3.26	3.08	2.94	2.97	3.20	3.11	3.26	3.28	2.97	3.31	3.17	3.03	2.56
作業療法学科	3.19	3.31	3.50	3.13	3.25	3.25	3.50	3.19	3.13	3.25	3.25	3.50	3.50	3.44	3.25	3.38	3.13	3.00	2.44
放射線学科	3.42	3.42	3.53	3.39	3.33	3.39	3.39	3.44	3.31	3.33	3.36	3.39	3.42	3.42	3.31	3.49	3.33	3.39	2.97
全有効回答者平均	3.14	3.20	3.29	3.09	3.16	3.21	3.27	3.20	3.18	3.19	3.20	3.25	3.06	3.08	3.11	3.22	3.11	3.11	2.66

■問5 大学への総合的満足度とその理由（自由記述）

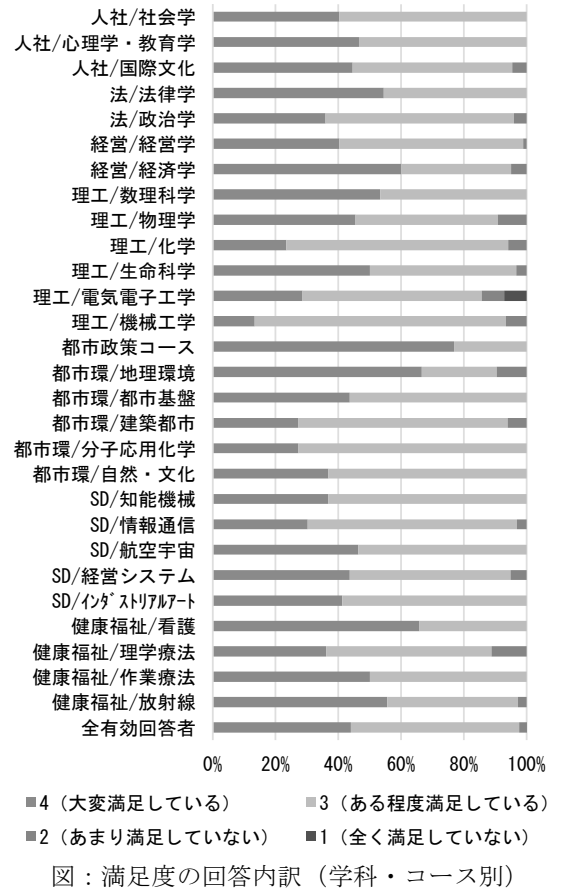
本設問は、大学への総合的満足度を4段階で回答するものである。

全有効回答者の平均値は3.42（昨年度は3.39）であり、「大変満足している」が44.0%、「ある程度満足している」が53.6%と、あわせて97.6%が本学へ満足した方向で回答している。右図は学科・コース別の回答内訳である。所属によってとくに「大変満足」の割合は大きく異なる。

下図は、「4（大変満足している）」と回答したものについて、その理由の自由記述を6種類に分類し、それぞれの回答数と割合をGPA\*の群ごとに集計したものである。「大変満足した理由」として学習成果や教育内容に関する記述をする割合は、高成績群のほうが高い傾向にある。

表：「大変満足」の理由別集計（成績群での比較）

GPA*の範囲	表示内容	4の回答総数	4（大変満足）					
			学習成果	教育内容	課外活動	人との関わり	環境	サポート
GPA* 2.0未満	実数	54	11	7	5	8	5	3
	割合		20.4%	13.0%	9.3%	14.8%	9.3%	5.6%
GPA* 2.0以上3.0未満	実数	287	69	29	34	47	38	7
	割合		24.0%	10.1%	11.8%	16.4%	13.2%	2.4%
GPA* 3.0以上	実数	144	39	22	18	20	17	3
	割合		27.1%	15.3%	12.5%	13.9%	11.8%	2.1%



■問6 改善すべき点（自由記述）

下表は、改善すべき点について、記述の対象ごとの割合をGPA\*の群ごとに集計したものである。とくに、割合だけを見ると、低成績群は学生支援についての改善点を記述する割合が高く、高成績群は設備やカリキュラム等の学びの内容に関するものの割合が高い傾向にある。これは昨年度と一貫した傾向である。

表：改善すべき点の記述対象ごとの割合（左：2017年度、右：2018年度）

所属	表示内容	2017年度					全回答数	所属	表示内容	2018年度					全回答数
		施設・設備	授業・カリキュラム	情報提供・管理	学生支援	その他				施設・設備	授業・カリキュラム	情報提供・管理	学生支援	その他	
GPA* 2.0未満	実数	17	8	3	13	4	45	GPA* 2.0未満	実数	28	14	12	14	15	83
	割合	38%	18%	7%	29%	9%	100%		割合	34%	17%	14%	17%	18%	100%
GPA* 2.0以上3.0未満	実数	108	58	25	39	27	257	GPA* 2.0以上3.0未満	実数	112	39	21	35	42	249
	割合	42%	23%	10%	15%	11%	100%		割合	45%	16%	8%	14%	17%	100%
GPA* 3.0以上	実数	80	40	21	17	20	178	GPA* 3.0以上	実数	65	30	12	17	24	148
	割合	45%	22%	12%	10%	11%	100%		割合	44%	20%	8%	11%	16%	100%

■コース・学科別の回答者数・回答率

コース・学科	回答者数	卒業者数	回答率	コース・学科	回答者数	卒業者数	回答率
人社/社会学	49	53	92.5%	都市環/地理環境	22	22	100.0%
人社/心理学・教育学	45	50	90.0%	都市環/都市基盤	40	48	83.3%
人社/国際文化	68	79	86.1%	都市環/建築都市	36	58	62.1%
法/法律学	122	144	84.7%	都市環/分子応用化学	44	59	74.6%
法/政治学	26	40	65.0%	都市環/自然・文化	19	22	86.4%
経営/経営学	172	191	90.1%	SD/知能機械	57	66	86.4%
経営/経済学	40	40	100.0%	SD/情報通信	33	42	78.6%
理工/数理学	15	37	40.5%	SD/航空宇宙	41	50	82.0%
理工/物理学	23	43	53.5%	SD/経営システム	42	55	76.4%
理工/化学	18	51	35.3%	SD/インダストリアルアート	51	65	78.5%
理工/生命科学	35	48	72.9%	健康福祉/看護	46	76	60.5%
理工/電気電子工学	16	50	32.0%	健康福祉/理学療法	36	38	94.7%
理工/機械工学	16	45	35.6%	健康福祉/作業療法	16	38	42.1%
都市政策コース	14	14	100.0%	健康福祉/放射線	36	41	87.8%
全体	1,178	1,565	75.3%				

※ 学科によって回答率が大きく異なるため、次回以降もさらに実施方法の検討と徹底が必要と思われる。

## 2018年度 卒業時の学修成果等アンケート調査

### ■所属ごとの回答者数・回答率

学部・系	コース・学科	回答者数	卒業者数	回答率
人文・社会系	社会学コース	49	53	92.5%
人文・社会系	心理学・教育学コース	45	50	90.0%
人文・社会系	国際文化コース	68	79	86.1%
法学系	法律学コース	122	144	84.7%
法学系	政治学コース	26	40	65.0%
経営学系	経営学コース	172	191	90.1%
経営学系	経済学コース	40	40	100.0%
理工学系	数理科学コース	15	37	40.5%
理工学系	物理学コース	23	43	53.5%
理工学系	化学コース	18	51	35.3%
理工学系	生命科学コース	35	48	72.9%
理工学系	電気電子工学コース	16	50	32.0%
理工学系	機械工学コース	16	45	35.6%
都市政策コース	都市政策コース	14	14	100.0%
都市環境学部	地理環境コース	22	22	100.0%
都市環境学部	都市基盤環境コース	40	48	83.3%
都市環境学部	建築都市コース	36	58	62.1%
都市環境学部	分子応用化学コース	44	59	74.6%
都市環境学部	自然・文化ツーリズムコース	19	22	86.4%
システムデザイン学部	知能機械システムコース	57	66	86.4%
システムデザイン学部	情報通信システムコース	33	42	78.6%
システムデザイン学部	航空宇宙システム工学コース	41	50	82.0%
システムデザイン学部	経営システムデザインコース	42	55	76.4%
システムデザイン学部	インダストリアルアートコース	51	65	78.5%
健康福祉学部	看護学科	46	76	60.5%
健康福祉学部	理学療法学科	36	38	94.7%
健康福祉学部	作業療法学科	16	38	42.1%
健康福祉学部	放射線学科	36	41	87.8%
計		1,178	1,565	75.3%

## 卒業時の学修成果等アンケート

首都大学東京FD委員会

2019年3月22日実施

ご卒業おめでとうございます。このアンケートは、皆さんが首都大学東京在学中に身に付けた学修成果をどのように考えているかについて意見を集め、今後のカリキュラム・学習支援・卒業認定方法等の改善の参考にするために実施しています。深く考えすぎず、率直に回答してください。

本調査の回答用紙には、回答者の学修番号・氏名等を記載する項目がありますが、分析を担当する学内教職員以外に知られることはありません。なお、回答結果に関しては、個人が特定されない形に処理されて、本調査以外の個人データとともに分析されることや、分析結果と合わせて本学内外の会議・セミナー等において報告する場合があります。また、全体集計結果を元に学内外に向けたポスターやリーフレット等を作成する場合がありますので、ご了承ください。本調査の回答データの一部は本学が業務委託する業者によって整理・分析されますが、その際、個々の回答が漏れることがないように必要な措置が講じられます。回答用紙は、分析終了後に記述内容が読み取れない処理をして破棄されます。

学部・系	コース・学科	学修番号	氏名
------	--------	------	----

問1. 首都大学東京の授業内容と教育方法に関する以下の項目について、あなたはどの程度満足していますか。あなたの今の考えに最もよくあてはまる数字に○をしてください。受講していない場合、最も右側の0に○をしてください。

	かなり満足している	ある程度満足している	やや不満	かなり不満	受講していない
<b>授業内容に関して</b>					
(1) 基礎ゼミナール	4	3	2	1	—
(2) 実践英語科目 (NSE)	4	3	2	1	—
(3) 未修言語科目 (ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語)	4	3	2	1	0
(4) 現場体験型インターンシップ	4	3	2	1	0
(5) 教養科目・基盤科目	4	3	2	1	0
(6) 専門教育科目 (ゼミ・卒論)	4	3	2	1	0
(7) 専門教育科目 (ゼミ・卒論以外)	4	3	2	1	—
<b>授業方法に関して</b>					
(1) 講義中心の授業	4	3	2	1	—
(2) 教員との双方向性のある授業	4	3	2	1	0
(3) 学生参加型 (実験・フィールドワーク・ディスカッション等) の授業	4	3	2	1	0

問2. 大学生活で正課以外 (単位認定されている授業以外) の活動のうち積極的に取り組んだものを選び、数字に○をしてください。「その他」を選んだ場合、具体的な内容を ( ) 内に書いてください (複数回答可)。

1. ボランティア活動 (学内)    2. ボランティア活動 (学外)    3. 地域貢献活動    4. 国際交流活動

5. サークル活動    6. アルバイト    7. 資格取得のための学習    8. その他 ( )

問3. あなたは本学の学習・生活支援に関する以下の項目について、どの程度満足していますか。

	かなり満足している	ある程度満足している	やや不満	かなり不満
<b>学習・生活支援に関して</b>				
(1) 教員とのコミュニケーション	4	3	2	1
(2) 職員とのコミュニケーション	4	3	2	1
(3) 学生相談室	4	3	2	1
(4) 図書館の施設や蔵書	4	3	2	1
(5) 情報処理関係施設や機器	4	3	2	1
(6) 実験・実習設備や機器	4	3	2	1
(7) 学生間の交流スペース	4	3	2	1
(8) 就職に関する相談・支援	4	3	2	1

問4. あなたは、次のような力・態度・知識等が首都大学東京での正課（授業等）を通じてどの程度身に付いたと思いますか。  
あなたの今の考えに最もよくあてはまる数字に○をしてください。

	かなり身に付いた	ある程度身に付いた	あまり身に付かなかった	全く身に付かなかった
(1) 自分の考えや疑問を相手にわかりやすく伝える力	4	3	2	1
(2) 相手の意見や疑問を的確に理解する力	4	3	2	1
(3) 相手と協調して行動する力	4	3	2	1
(4) 情報通信技術を使って、多様な情報を収集する力	4	3	2	1
(5) 多様な情報を分析する力	4	3	2	1
(6) 持っている情報・知識や能力を総合的に活用する力	4	3	2	1
(7) 多様な視点から物事を考える力	4	3	2	1
(8) 解決すべき問題の本質を見極める力	4	3	2	1
(9) 論理展開を的確に理解する力	4	3	2	1
(10) 自らの考えを論理的に組み立てる力	4	3	2	1
(11) 解決すべき問題や課題を見つける力	4	3	2	1
(12) 解決すべき問題に取り組む姿勢	4	3	2	1
(13) 高い倫理観	4	3	2	1
(14) 社会に対して主体的に関与する責任感	4	3	2	1
(15) 異なる文化的背景を持つ人・国・社会への理解	4	3	2	1
(16) 自らの専門分野の専門的な知識・理解および技術	4	3	2	1
(17) 自らの専門分野以外の社会人として必要な幅広い教養	4	3	2	1
(18) 日本語の運用能力	4	3	2	1
(19) 英語の運用能力	4	3	2	1

問5. 総合的にみて、首都大学東京での学生生活に関して、どの程度満足されていますか？また、なぜその満足度を選んだのか（主要な理由）についてお答え下さい。

4. 大変満足している 3. ある程度満足している 2. あまり満足していない 1. 全く満足していない

◆上記の満足度を選択した理由

問6. 首都大学東京における学修や学生生活に関して、大学が改善すべきことは何ですか？自由に記入してください

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。